



白河二中だより

NO. 4
2023. 4. 28
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

校舎を大切に

19日より新校舎における全体での清掃が始まりました。

校長室や職員室、正面玄関等を担当している子ども達の黙々と、そして、一生懸命にごみを集めたり、ぞうきんで汚れを落としたりしている姿から、「新しい校舎をきれいに使おう」という子ども達の温かな気持ちが伝わってきます。白河二中の子ども達のために作っていただいた校舎を傷つけることなく、子ども達と一緒に大切に使用していきたいと思ひますし、昨年度以上に清掃活動を充実させていきたいと思ひます。



また、普段から、机のズレに気づいたらそっと直したり、ごみが落ちていたらさっと拾うことができたりする姿が溢れる学校にしたいと思ひます。大谷翔平選手が大リーグでもグラウンドに落ちてゐるごみを拾う姿が話題となりますが、当たり前前をを当たり前前にできることが、人としての成長にもつながるのだと思ひます。

自分の命を自分で守る

27日(木)、今年度1回目の避難訓練を行いました。今回の目的は、火災発生時の避難行動の取り方、そして、新しい教室から校庭までの避難経路の確認でした。

学校では、火災や地震等の自然災害、不審者の侵入を想定して訓練を行いますが、何よりも大切なのは「確かな情報に基づく判断と行動」です。今回は担任が誘導しましたが、一人できるときに放送で避難を呼びかけられた際、自分のすべきことを考え、判断し、行動に移すことができるようにしなければなりません。そのためにも、普段から放送をしっかりと聞くこと、得られた情報から自分の命を守るために、どう行動すべきかを判断する力を育てていきたいと思ひます。

また、今年の12月までは外構工事が進められる予定であり、進捗状況によっては避難経路自体が変更となることも考えられますので、全校生徒が混乱することのないよう、その都度、確認をしていきます。



「ひらいてとじた 笑顔がふえた」(こどもの読書週間スローガン)



朝の8時15分になると、全員が自分の席で読書を始めます。聞こえるのはページをめくる音だけ。

集中して本に向き合っている子ども達は、たくさんの知識を身につけたり、様々な主人公と対話したりして、ものの見方や考え方を広げています。

4月23日～5月12日までの約3週間は「こどもの読書週間」です。昨年度末より、校舎引っ越しのために図書館での貸し出しができませんでしたが、司書教諭の鈴木千彩子先生を中心に整備を進め、24日(月)から再開しました。初日には多くの生徒が駆けつけ、20人ほどの貸し出しがあったそうです。これから、どんどん図書館を活用してほしいと思ひますし、GW期間中には、少しでも本を「開いて閉じて、笑顔が増えて」ほしいと思ひます。